

## かかりつけ医・家庭医のための ここまでわかる腹部単純X線写真の読影

日時：平成23年8月14日（日）10：00～15：00

講師：西野 徳之 総合南東北病院 消化器センター長 場所：中小企業会館

7月24日の予定から急遽お盆の時期に開催日が変更されたにもかかわらず、熱心な若手の先生を中心に集まりいただき、8月14日（財）脳神経疾患研究所附属総合南東北病院消化器センター長の西野徳之先生を講師に迎え、東京都銀座の中小企業会館において「ここまでわかる腹部単純X線写真の読影」をテーマにMHS医学臨床セミナーを開催いたしました。

### 腹部単純X線の重要性は、臨床医こそが認識しなければいけない！

1枚の腹部単純X線があるとして、病変を読めるか？見逃すか？……おかしいなと気がつくか？何も感じないか？……それを左右するのは「知識」と「経験」だと西野先生はおっしゃいます。単に経験だけではいけません。大ベテランの医師が問題なしと判断し処方だけで帰した患者が、痛みがひかず再来院して前回受診時の写真にはっきりと緊急手術が必要な影が映っていた事例もあるようです。

また、西野先生は「X線で最終診断を下す必要はない」「写真を見たときに、何か変だと気がつけばいい」「とりあえず異常があるかどうか分かればいい」「見方次第ではX線には意外と多くの情報が分かるので患者の手助けのためにとりあえずX線を撮っておくべき」「そのためには2次元の写真を3次元にして考える理解力を養ってほしい」ともおっしゃっていました。

常に病変があるつもりでX線を見て、病歴や臓器の位置と写真のデータからおかしいと感じることができる知識を得てもらうのが今セミナーの目的でした。左脳を使うだけでなく、右脳を使うことで見えなかったものが見えてくる……そんな症例を中心に解説は進みました。

当然、私たち医師でないものが見ても映された写真のどこがおかしいのか見つけることができません。仕事柄どこのあたりに肺があり、心臓があり、腎臓、胃、肝臓、腎臓があるのか程度は知っていましたが、さすが症例として出される写真はどれも教訓が含まれた写真ですので難解です。

西野先生は「大切なことは単に見える写真を判断するだけではなく、体の中の臓器のイメージを持ち、診断に役立てようと考えながら読影すること」と伝えます。胃や腸の位置がおかしい。それは見えるはずのものが見えていなかったり、おかしい位置に影があったりと言われてみればなるほどという事例が多くありました。それらは臓器のイメージをもって読影することで気づきが得られます。先生曰く、これも「アハ体験」だそうです。



腹部単純X線写真の重要性を語る西野先生

今回のセミナーは初めてBGMを流しながらのセミナーでした。リラックスして講義を聞いてほしいとの西野先生の気配りです。

次回セミナーは8月28日、大田区産業プラザで野村泰之先生により「めまい・耳鳴り診療のキーポイントをテーマに開催いたします。